



## 生涯農協運動者という信条

3月8日、昨年の11月1日に95歳で永眠された、“南斗六星子”を自称する元鹿児島県信連常務の八幡正則さんの偲ぶ会が鹿児島市のサロイヤルホテルで行われた。鹿児島農協の不良債権処理等々で大奮闘をされると同時に、仕事外でも二宮尊徳思想を伝える「怠ればすたる塾」塾長、鹿児島県有機農業協会副理事長をはじめ多岐にわたる地域活動をリードしてこられたことから、地元だけでなく、東京を含む各地から百名近い方々が集まった。何人もから、故人を偲んでの昔話等、スピーチが行われた▼この中で筆者にとつて特に印象深く、本欄をうじて是非とも共有・拡散しておきたいのが元農林中金副理事長の上山信一さんの話だ。上山さんは八幡さんより2歳年上のほぼ同世代。八幡さんとは肝胆相照らす仲で、八幡さんと議論する中で、戦後、高度経済成長する中で日本が失ってしまった三つと、農協運動への信条で、八幡さんと意見が合致し、百歳を目指してともに奮闘していくことを誓い合ったという。失った一つは担い手や農地で、食料安全保障が揺らぎ、食料自給率は40%（カロリベース）を切ってしまった。第二に、所得格差を拡大して平等性を喪失したこと、第三が、経済的に豊かにはなったものの、人の心を失ってしまったこと、だという。こうした中、あらためて農協運動の基本である、集まって強くなる、一人一人ではできないことを農協に集まってやっていく。この原点に立ち返るべきと強調された▼上山さんは98歳。同志の八幡さんが亡くなられて残念至極ながらも、引き続き世に訴えていくことが必要、どの言葉に心を揺さぶられるとともに、八幡さんの「そのとおり」との大きな声が聞こえたよう気がした貴重な会であった。

(土着菌)